

『花を訪ねて： ツツジ』

## 塩船観音・霞丘陵山行報告(2022年04月28日(木))

去年4月ビスター例会で伊藤さんから、4月中旬(日曜)に「霞丘陵山行」の提案があった。コースは岩蔵温泉から霞丘陵ハイキングコースを通して塩船観音寺(東京100選)でツツジを楽しんで、東青梅駅まで全歩きということだ。この計画は実現しなかったが、本年4月例会で、東青梅駅から塩船観音でツツジを楽しんだ後に、霞丘陵コースで岩蔵温泉まで逆方向に歩こうという提案があった。今回は“塩船観音でツツジを楽しんだだけで戻っても良い”という代案も出されており、数名の方の参加希望があった。私も先月に右腰・脚を痛めており、体調によってコースを決めようと考えていた。ところが天候が不安定で、伊藤さんから2日前に“中止”の連絡が出された。それで、私は、翌日は晴れが予報されていたので、翌28日に出かけることにした。参加者を募ったが、結局一人で出かけることになった。

当日の天気予報がはずれて、かなり厚い雲に覆われる日になってしまった。しかし段々好転して昼近くなれば晴れるということで、とにかく予定どおり出発した。途中の電車はあまり混んではなく、東青梅駅に到着した。この頃になると薄日が差してきた。バスで塩船観音入口まで行くのだが、このバス停の位置が分かり難い、伊藤さんから事前に案内をいただいていたが、青梅から来るバスなのだろう、かなり離れた場所にあった。教えてもらっていなかったら、絶対に乗れなかっただろうと思った。

10時18分に乗車して、「塩船観音入口」バス停で下車、住宅街の中をゆっくり登って行く。15分程で塩船観音寺の入口「仁王門」(国重文)に到着、来場者は老若男女などかなり多くの人達が押し掛けていた。仁王門を通り、同じく国重文の「阿弥陀堂」にお参りする。次に両側にカラフルな幟が立つ参道を進んで「本堂：圓通閣」にお参りする。「入山券」(75歳以上¥250)を入手して「ツツジ園」に向かう。

馬蹄形状のすり鉢の斜面一面に、昭和41年から植樹してきた約2万本のツツジが植えられていて見事だ。ただ今日は既に枯れている花もあるが、緑色も目につき五分咲きといったところか。来週位には本当の見頃になるだろう。11時にすり鉢の底の「ツツジ園」入口に立つと、正面に「護摩堂：弘誓閣」が建ち、その後の山の上に「塩船平和観音像」が立っている。護摩堂の後の観音池からツツジの間を直登しようと考えたが、細い道は右に左に行ったり来たりで、なかなか上の方に登ってくれず、そう簡単には問屋が卸してくれなかった。歩いている誰かが「この道は庭師がツツジの手入れのために使うのね」と話していた。納得。それでもようやく、広い道に出て観音像の下にたどり着くことができた。観音様の足元から見ると、周りの色とりどりのツツジ群、護摩堂などの幾多の堂宇を見下すことができた。

観音像の直ぐ後ろに、入山料を徴収する裏出口があって、そこから「霞丘陵ハイキングコース」が始まるのだ。落ち葉が積もっている、ゆるゆるとした下り道で、右側は急な傾斜地、左側にはゴルフ場があった。少し歩くと3脚のベンチがあって、11時半だったので昼食・休憩を摂ることにした。

少し登る所もあったが大体は下り傾向で進む。2ヶ所ほど5m程だが急な木段があって、ここだけは何故かぬかるんでいた。また、10m位下に沢地があって年配のご夫婦が三つ葉を採っていた。岩蔵温泉方面から歩いてくるハイカーも程々にいたが、全般に静かなコースだ。

12時10分に「笹仁田峠」に到着した。「七国峠」方向への道(岩蔵街道)は何故かゲートがあって閉ざされていた。小生は些か右脚が痛くなっていたので、ここから南へ「塩船観音入口」バス停まで下り、バスで河辺駅へ戻ることにした。12時30分、バス停に着いてみると20名位の人が行列していて、更に私の後にも10名位の人が並んだが、15分ほど待つとバスが来て、全員乗車満員で出発した。13時少し前に河辺駅に到着、そのまま帰途に着いた。

以上 陽田



仁王門 (国重文)



ツツジ園



護摩堂:弘誓閣、背後に塩船観音像が立つ





平和観音像



霞丘陵コースの入口



霞丘陵コース途中の看板



岩蔵街道へ、七国峠への分岐点



途中の沢へ下る木階段